

新古今 歳時記

平成 27年10月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
10月と言えば、秋祭りが盛んに開催され、暑さもおさまり、行楽地などでは大勢の観光客で賑わう。また新米をはじめ「食欲の秋」を満喫できる実りの季節、少し遠出して秋を楽しもう！



写真：剣山に咲くリンドウ

月 新暦・旧暦

雑節・祝日

祭・イベント

季節の風物詩

13 火	12 月	11 日	10 土	9 金	8 木	7 水	6 火	5 月	4 日	3 土	2 金	1 木
みずのえ 八白先負	かのと 九紫先勝	かのえ 一白赤口	つちのと 二黒大安	つちのえ 三碧仏滅	ひのと 四緑先負	ひのえ 五黄友引	きのと 六白先勝	きのえ 七赤赤口	みずのと 八白大安	みずのえ 九紫仏滅	かのと 一白先負	かのえ 二黒友引
いぬ 旧 9.1	とり 旧 8.30	さる 旧 8.29	ひつじ 旧 8.28	うま 旧 8.27	み 旧 8.26	たつ 旧 8.25	う 旧 8.24	とら 旧 8.23	うし 旧 8.22	ね 旧 8.21	い 旧 8.20	いぬ 旧 8.19

共同募金

三りんぼう

国際協力の日

寒露

世界郵便デー
三りんぼう

目の愛護デー

二百二十日
三りんぼう

体育の日

下弦



写真：那賀町延野の田んぼの稲穂

1～2日 橘海正八幡神社秋祭
けんかだんじり
(阿南市橘町)

10日 横須まつり花火大会
(小松島市競輪場付近)

10～11日 日和佐八幡神社
秋季例大祭
(美波町境内～大浜海岸)

10～12日 マチアソビ痛車イベント
(徳島市眉山・藍場浜)

11日 穴喰伊勢エビ祭り
(海陽町穴喰港周辺)

11日 赤松神社奉納吹筒花火
(美波町赤松)

露地みかん出荷
柿実りはじめる
みずはじめてかれる
水始酒

きのこ美味しい季節
冬支度はじまる

鳴門金時などイモの
出荷はじまる

最後のお米の
収穫時期

寒さとともに
秋が深まる
鴻雁来

梨「新興」収穫

13日 イモの日
菊花開

※掲載のイベント情報は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

昔 64年前の連載より

今年こそ稲の豊作が予想されて、どこの村も祭景気をあおっている。徳島市内ではこの十七日が、春日神社の祭礼だったことを忘れてはならない。今はすっかり社殿を失い、元禄ごろの手水鉢に綺麗な滝の水をたたえているのが、焼けただれた跡に残っているだけに、しみじみと昔をよびさますものがある。かつてアイ商が盛んだったころ、船場町の問屋では毎年きまつて祭客に取引先を招待し富街から選り抜きの芸妓をはべらせて、終日飲めや歌えの大はずみだった。その明治七、八年ごろは眉山が歓楽地帯で、春日さんの境内に『銀世界』というこの店があった。毎日のように出かけて来るたしかフランス人の客が、たまたま興に乗って『銀世界』の筆をふるった。三尺ほどの立石にとっしりと彫った店の目標で、これが外国人の書いた筆跡とあるので珍重されたが、いまは影も形もない。何さま、春日祭といえは新町、内町の繁華街を氏子に持つて、各町から競つてくり出す『よやしよ』という勇み屋台は当時金目をいとわずこしらえたもので、大工町の日鳥、古物町の

笹瀬にしても、井げたに組合した真棒は直径七寸という大きなもの。同じ町内でもお祭り雑用を出しづつた家は、この真棒の先が重量にまかせて、ズシンと来るので、ざつとした格子なぞは、ことたまりもない。家政公が入国の時から由緒の深い神社だけに、焼けたまま放つておけないと有志たちが、極力再建に奔走しているから、日ならず実現を見るであらう。

同じ祭でも富田の彌吉明神は廿一日だが、こは御輿に従う馬ぞろえに、昔は海部の奥から、何日もかかつて供馬に來たという。そのころ百頭の飾馬が市中をねつたとあるから、いかに豪華な祭だったかが想像される。特に祭の日に行うかけ馬は大正中期まで馬場を埋める群集で、終日身動きもならぬ苦しさ。ただし現在の競馬とは異なり、陣羽織のように仕立てた優美な乗り子の衣装に金縫を施した頭巾と腰にさした五色紙の根むちが馬を走らす勢いに風をはらんで、パツとかさのようにつぶれるところに風情があった。

十月にはいると橘町の祭だが、これはまた物すごいあばれ祭である。屋台の前後に長い引つ張り網をとりつけ、大勢が勇しい掛け

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
か の え 八 白 先 負	つ ち の と 九 紫 友 引	つ ち の え 一 白 先 勝	ひ の と 二 黒 赤 口	ひ の え 三 碧 大 安	き の と 四 緑 仏 滅	き の え 五 黄 先 負	み ず の と 六 白 友 引	み ず の え 七 赤 先 勝	か の と 八 白 赤 口	か の え 九 紫 大 安	つ ち の と 一 白 仏 滅	つ ち の え 二 黒 先 負	ひ の と 三 碧 友 引	ひ の え 四 緑 先 勝	き の と 五 黄 赤 口	き の え 六 白 大 安	み ず の と 七 赤 仏 滅
た つ	う	と ら	う し	ね	い	い ぬ	と り	さ る	ひ つ じ	う ま	み	た つ	う	と ら	う し	ね	い
旧 9.19	旧 9.18	旧 9.17	旧 9.16	旧 9.15	旧 9.14	旧 9.13	旧 9.12	旧 9.11	旧 9.10	旧 9.9	旧 9.8	旧 9.7	旧 9.6	旧 9.5	旧 9.4	旧 9.3	旧 9.2
世界勤俵デー				読書週間	原子力の日	十三夜	霜降 国連デー	電信電話記念日	国民の休日	土用 三りんぼう		社日	統計の日	貯蓄の日		新聞週間	鉄道の日
				満月						上弦							

31 〓翌月1日 エクストリーム
チャレンジ 四国の右下
(海陽町まぜのおか)

27 〓28日 四所神社秋祭り
船だんじり
(徳島市福島)

25 〓翌月3日 神山アーティスト
インレジデンス (神山村)
25日 由岐伊勢エビまつり
(美波町由岐支所前)



写真：眉山山麓の大滝山より徳島市街地を望む

天岩戸別神社秋の例祭
(佐那河内村)
春日神社秋の例祭
(徳島市大滝)

ゆこの収穫

きりぎりすにあり
蟋蟀在戸

こさめときどきふる
霎時施

昭和26年10月 徳島新聞連載
阿波歳時記10月の巻より抜粋
著者…絵師 郷土芸能研究家
林鼓浪 (1887-1965)

声で突っ走るかと思つと、すぐ
後ろから綱で引返すのだが、あ
の橘の二筋町を各町から出る綱
だんじりが、後から後からこの
しかかるので、危つく衝突する
のでないかとひやひやすする。ま
た変わつてゐるのが川田町の八
幡祭りで、この月の下旬に行わ
れるが、ここは屋台同志がお
互いののしりわめいてケンカを
仕かけるのが面白い。昔は屋台
を木ツ端微じんこわしてしまつ
た時もあったそつだが、いまは
危険をはらむように見えてもそ
の実、祭の余興だけに寝も葉も
ないから心配はない。いまだき
こつた祭の風習をくり返して
ゐるのは珍しい。



取材デザイン編集
上野昇 (ののちゃん)
四国大学
生活科学部講師

故林鼓浪の連載「阿波歳時記」
の10月分を紹介した。この春日
神社は、徳島市眉山山麓(大滝
山)にある神社で、奈良の春日
大社と同じく祭神。今は閑静な
寺町の奥に、この神社と焼餅屋
の『和田乃屋本店』前の白糸の
滝他、錦竜水などの名所が残る。
鼓浪によると戦前までは徳島で
最も賑やかな歓楽地帯だと記さ
れているが、現在は全くその面
影は無い。春日神社の秋の例大
祭日は9月中旬に決定とのこと、
毎年10月中旬に宵宮と大祭が予
定されている。神社から眉山山
頂へつづく山道沿いには以前、
持明院建治寺の三重塔や料亭な
どがあつたらしいが、いずれも
戦災で無くなったそつだ。鼓浪
も書いてゐる通り、戦後しばらく
は焼けたまま放置されていた
とのこと。しかし、現在は桜の
名所としても有名で特に市民の
憩いの場として親しまれてゐる。

今 秋まつり